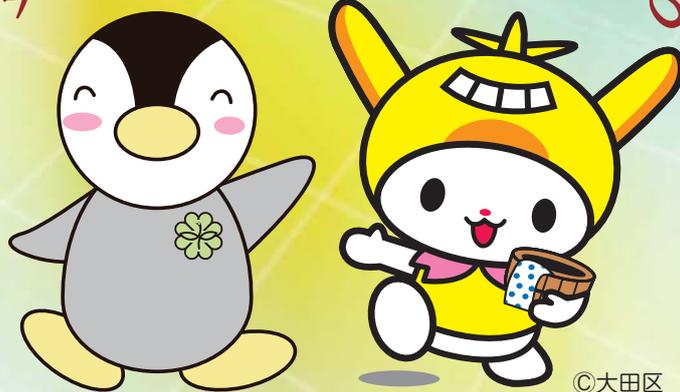


民生委員制度 創設100周年記念誌

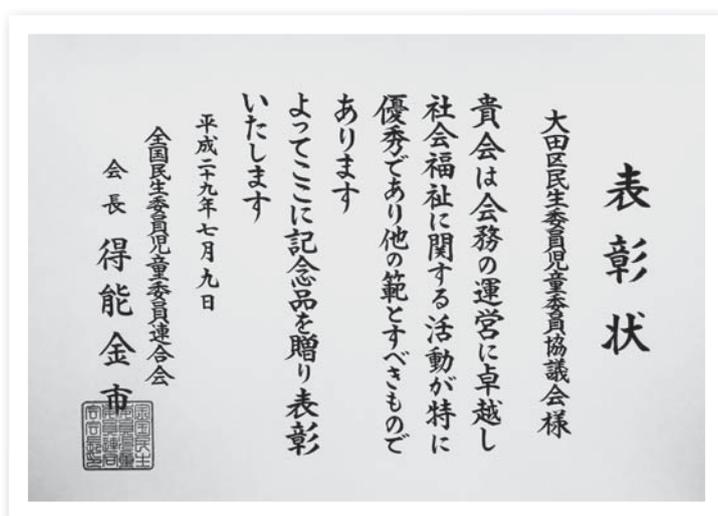
支えあう 住みよい社会 地域から



大田区民生委員児童委員協議会

目次

1	あいさつ 挨拶	おおた くみんせい いんじ どう いんきょうぎかい かいちよう 大田区民生委員児童委員協議会会長	ひらいし 平石	あきお 昭夫	1
2	きこう 寄稿	2
	おおた くちよう 大田区長		まつばら 松原	ただよし 忠義		
	おおた くぎ かいぎちよう 大田区議会議長		おおもり 大森	あきひこ 昭彦		
	とうきよう と みんせい じ どう いんれんごうかい かいちよう 東京都民生児童委員連合会会長		てらだ 寺田	あきひろ 晃弘		
	おおた くじ ち かいれんごうかい かいちよう 大田区自治会連合会会長		おぼら 小原	こういち 洪一		
	おおた くしゃかいふくし きょうぎかい かいちよう 大田区社会福祉協議会会長		なかじま 中島	すみ 寿美		
	おおた くみんせい いんじ どう いんきょうぎかい 大田区民生委員児童委員協議会	だい だいかいちよう 第11代会長	えのもと 榎本	ひさお 久雄		
	おおた くみんせい いんじ どう いんきょうぎかい 大田区民生委員児童委員協議会	だい だいかいちよう 第12代会長	はたのけんいちろう 波田野健一郎			
	おおた くみんせい いんじ どう いんきょうぎかい 大田区民生委員児童委員協議会	だい だいかいちよう 第13代会長	おおわ だけいち 大和田圭一			
	おおた くみんせい いんじ どう いんきょうぎかい 大田区民生委員児童委員協議会	だい だいかいちよう 第14代会長	よしの たかお 吉野 鷹夫			
3	おおた く とりく しょうかい 大田区の取組み紹介				10
4	ちく かつどうしょうかい 18地区の活動紹介				16
5	みんせい いんせい ど れきし 民生委員制度の歴史				52
6	ねん む これからの100年に向けて				54





「民生委員制度創設100周年記念誌の発行にあたり」

大田区民生委員児童委員協議会

会長 平石 昭夫

本年、民生委員制度は創設100周年という1世紀の大きな節目を迎えました。大正6年に岡山県で済世顧問制度が創設され、翌年の大阪府における方面委員制度、さらに全国的な広がりへとつながっていく民生委員制度100年の歴史は、地域において常に住民に寄り添い、献身的な活動をされてきた数多くの先達の努力の積み重ねであり、その歴史の重みとなっております。

今日、社会環境や経済状況の変容によって、様々な社会的、経済的格差が生じています。核家族化や生活の多様化により、高齢者や子育て世帯への支援、生活困窮世帯への対応等、課題が複雑化し、社会福祉法や児童福祉法をはじめとする福祉諸制度については改定が進められてきました。一方、東日本大震災以降の自然災害において地域の住民同士の支え合いが改めて重要視されているように、人と人との交流の希薄化が進む現代においては、地域住民が主体的に参加し、相互で支え合い、安心、安全で生活していく「地域共生社会」の実現が望まれています。その中で、住民と行政の橋渡し役であり、最も身近な相談相手である私たち民生委員児童委員への期待が一層大きなものになってきていると感じています。

今年7月に、大田区民生委員児童委員協議会は全国民生委員児童委員連合会から「優良民生委員児童委員協議会」の表彰を受けました。大田区民生委員児童委員協議会としては初めての受賞で、本当に嬉しく思います。受賞に際しては、これまでの区内18地区の単位民生委員児童委員協議会の運営と、委員一人ひとりが住民に対し親身に寄り添う活動が評価されました。地域の中で活躍される委員の皆様の日頃の労苦に改めて心から感謝申し上げますとともに、この受賞は、委員が一丸となって行う地域に根差した民生委員児童委員活動の後押しになったと思います。

今回、大田区民生委員児童委員協議会として、初めての記念誌発行となりました。民生委員の活動の歴史や、区内18地区の活動内容について掲載をしております。あわせて、各関係団体や歴代会長様からお寄せいただきましたお祝いのメッセージを掲載させていただきました。ご寄稿いただきました皆様には、この場をお借りしまして改めてお礼を申し上げます。本記念誌が、民生委員をご支援してくださっている皆様やこれから民生委員になられる方等に対しまして、活動内容をご理解していただく一助となればと思っております。

最後になりますが、大田区民生委員児童委員協議会は、全国民生委員児童委員連合会の新しい活動スローガンである「支えあう 住みよい社会 地域から」を常に心に留め、今後も誰もが笑顔で安全に安心して暮らせる社会が構築されるよう、歴代の民生委員の方々が培ってこられた歴史を踏まえ、さらに未来へつないでいけるよう、日々の活動においてその使命を果たしてまいり所存です。

これからも皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

2. 寄稿



「民生委員100周年に寄せて」

おおた たくちょう
大田区長

まつばら ただよし
松原 忠義

民生委員制度創設 100 周年、児童委員制度創設 70 周年を迎えたこと、誠におめでとうございます。

また、その記念すべき節目の年に、大田区民生委員児童委員協議会が優良民生委員児童委員協議会表彰を受賞されたことを大変誇りに思います。この優良民生委員児童委員協議会表彰は、自主活動の盛んな民生委員児童委員協議会に贈られるとのこと、本年は都内から 3 か所、全国では 74 か所の民生委員児童委員協議会が受賞されたと伺っております。民生委員児童委員の皆様お一人おひとりが自ら地域を歩いて状況を把握し、課題があれば支援につなげるという日々の活動とそのボランティア精神が多く、民生委員の皆様から受け継がれてきた積み重ねが、栄誉ある受賞に繋がったものだと認識しております。

さて、民生委員制度が 100 周年を迎えた今年、大田区も区制 70 周年を迎えました。区では平成 29 年 3 月の 70 周年記念式典の中で「国際都市おおた宣言」を行いました。この宣言は、地域の担い手である区民の皆様とともに、「地域力」を結集して輝かしい未来に向かってはばたきたいという思いを込めて策定しました。自治会・町会をはじめ、地域を主として活動する団体が多く、地域の力の結晶のひとつが民生委員児童委員の充足率 97% と高い割合となっていると思います。

昨今、高齢者の諸問題をはじめ、老々介護や子どもの貧困など様々な課題が生じています。特に、子どもの貧困については世間でも大きくクローズアップされ、区では「おおた子どもの生活応援プラン」を策定しました。未来を担う子どもたちを温かく包み込む地域社会の実現、また着実な推進のためにも民生委員児童委員の皆様のお力が必要です。区も皆様と手を携え、全ての区民が自ら描く未来に向かい健やかに暮らしていけるよう、全力で取り組んでまいります。

民生委員児童委員の皆様には、区民の最も身近な相談役として、また区民と行政の橋渡し役として地域福祉の更なる推進に向けて、今後もより一層ご活躍くださいますよう、心よりお願い申し上げます。





「民生委員制度100周年に寄せて」

大田区議会

議長 大森 昭彦

民生委員制度創設 100 周年、誠におめでとうございます。

我々大田区議会議員の定数は 50 人ですが、民生委員の方々は概ね 500 人と伺っております。この 500 人の方々が、72 万人の大田区民のために日々、地域福祉の担い手として活躍されていることに、あらためて感謝申し上げます。

民生委員の方々が、地域の状況を把握されたり、ひとり暮らし高齢者のお宅を訪問してその状況を聞き取ったり、教育関係機関と連携して子どもの見守りを行われていたり、担当地区の様々な活動に参加する姿を街なかでしばしば拝見いたします。地域での関わりが希薄になっている中での活動は従来にも増したご苦労があり、また緊急時の対応として災害弱者の情報共有等も求められる中、個人情報保護にも配慮が必要な場面もあり、民生委員の方々の活動に際しては今日的な困難も多く伴っていることと存じます。

平成 29 年度予算を見ますと、一般会計歳出に占める福祉費の割合は約 56% であり、少子高齢社会において、高齢者、障がい者対策はもちろんのこと、未来を拓く子どもや若者の成長を積極的に支える取組みが盛り込まれております。この予算は、区民にとって有意義な福祉施策が提供できるよう大田区議会としても議論を交わし、実現したものです。この予算を活かし、区民の福祉を向上していくためには、地域の方々による見守りはもちろんのこと、民生委員の方々に相談を受けていただき、種々の福祉サービスを紹介し、日常生活の支援などに努めることにより、必要な福祉施策を、必要とする人々に繋いでいくことが欠かせません。

少子高齢社会が進展する中、民生委員の方々の担う役割はますます重要になってまいります。全ての区民が「生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち」大田区を実感できるよう、我々大田区議会も尽力してまいりますので、民生委員の方々におかれましては今後より一層のご活躍を期待いたしまして、民生委員制度 100 周年に寄せるお祝いの言葉といたします。

2. 寄稿



「せいど そうせつ制度創設しゅうねん しゅうく100周年を祝して」

とうきょう とみんせい じどう いんれんごうかい
東京都民生児童委員連合会
かいちょう てらだ あきひろ
会長 寺田 晃弘

大田区民生委員児童委員協議会「民生委員制度創設 100 周年記念誌」が発刊されますことを、心よりお祝い申し上げます。

制度創設当時の世の中は、第一次世界大戦で戦勝国となり目覚ましい経済発展を遂げる一方、急激なインフレにより失業や貧困が蓄積され貧富の差が広がるなど、国民生活は不安定化の一途をたどる状況でした。また本年は、太平洋戦争後に巷にあふれた戦災孤児等の保護と併せ、未来を担う子どものための法整備として制定された児童福祉法に規定された児童委員制度も、誕生から 70 周年を迎えました。

このような歴史の足跡は、経済的な困窮や社会的孤立、児童虐待をはじめ格差社会、子どもの貧困と言われる現代の課題にも通じており、解決に向けた一層の取り組みが求められています。

こうした中であって、貴協議会においてはこれまでも地域福祉の時代に相応しい活動を積極的に展開され、全都の協議会を牽引してこられました。今後も地域住民に寄り添い、その期待と信頼に応えながら、尊い活動を次の世代へと確実に引き継いでいかれることをご期待申し上げます。

東京都民生児童委員連合会としても、すべての人が世代や背景を超えてつながり相互に支え合える共生社会の実現を目指し、地域福祉がさらに推進するよう奮励努力してまいります。

これから先も、時代の変化に即応しながら貴協議会がますます発展されますことを心よりご祈念申し上げます。





「民生委員100周年に寄せて」

おおたくしちかいれんごうかい
大田区自治会連合会
かいちょう おぼら こういち
会長 小原 洪一

民生委員制度創設 100 周年おめでとうございます。

民生委員の皆様は、昼夜を問わず、地域の方々の身近な相談役として活躍されています。少子高齢社会が進む中、一人暮らしの高齢者の見守りや要支援者の訪問など、地域の安全・安心になくてはならない活動と考えております。日頃から自治会・町会活動にも積極的にご参画いただき、防災訓練、交通安全運動、地域のお祭りなどで、重要な役割を担っていただいています。私たち自治会・町会も地域での悩みを相談したり、共に連携・協力し問題解決に至る場面もあり、地域全体にとってまさに頼りになる存在です。

私自身も民生委員として、平成 11 年から約 8 年間活動しました。その際、“頼りになる”という信頼感を得られることが出来るよう、日頃から心がけて活動しておりました。

100 年続き、地域に根付いた民生委員の制度を、自治会・町会活動を通じて今後も地域から応援してまいります。民生委員の皆様のさらなるご活躍を祈念し、ごあいさつとさせていただきます。



「100周年を迎えた民生委員制度について」

おおたくしやかいふくしきょうぎかい
大田区社会福祉協議会
かいちょう なかじま すみ
会長 中島 寿美

民生委員制度創設 100 周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

世界中の誰もが、住み慣れたまちで笑顔で安全に安心して暮らしたいと願っています。こうした中、大田区が誕生する以前から、地域を見守り、住民に寄り添い、支えていただいていた民生委員児童委員の皆様には、心から敬意と感謝を表します。

大田区社会福祉協議会は、民生委員の方々のお力添えがあり、昭和 27 年 1 月に民生委員常務委員協議会において「社会福祉協議会の設置」が取り上げられ、区内 9 地区に社会福祉協議会が設立されました。同年 11 月 3 日には、「大田区社会福祉協議会連合会」が発足し、その後組織の再編を経て、現在に至っております。

長い歴史を持つ民生委員制度は、時代とともに求められることが変わってきましたが、いつの時代も変わらず地域福祉活動の中心にありました。こうした中、国が示す地域住民が共に支え合う「地域共生社会」の実現に向けて、大田区社会福祉協議会は、民生委員児童委員の皆様をはじめ、多様な団体や組織と手を取り、安全・安心な地域づくりを広げてまいりたいと考えております。

民生委員児童委員協議会の今後ますますのご発展と委員の皆様のご活躍を祈念し、挨拶とさせていただきます。

2. 寄稿



「民生委員児童委員活動を振り返って」

大田区民生委員児童委員協議会

第11代会長 榎本 久雄

民生委員制度創設 100 周年に当たり、心よりお祝い申し上げます。

私が民生委員のお話をいただいたのは 40 歳の時でしたが、父親から「この役だけは引き受けて良いのではないか」との助言もあり、お引受けすることにしました。

それ以降、定年を迎えるまでの 30 年余りを民生委員として大過なく過ごすことができたのは、大田区、大田区社会福祉協議会並びに一緒に活動させていただいた民生委員児童委員の方々のご協力によるものと感謝の念に絶えません。

民生委員活動を振り返りますと、数々の思い出があり、感慨深いものがありますが、なんと言っても一番思い出に残っていることは、平成 6 年 1 月に民生委員児童委員の中に児童福祉に関する事項を専門に担当する主任児童委員が創設されることになったときのことです。

当時、私は大田区民生委員児童委員協議会の会長を勤めさせていただいていた関係で、当時の福祉部長とも相談しながら、大田区の 18 地区の協議会が足並み揃えて主任児童委員を選任できるか、また私自身の地区で主任児童委員を選任できるか、大いに頭を悩ませたものでした。

昭和 23 年の児童福祉法制定以来、民生委員は児童委員を兼務してまいりましたが、少子化、核家族化が進む中、家庭の養育能力が低下し、児童委員活動の強化が必須のこととなり、新たに主任児童委員を各民生委員児童委員協議会に設置することになったのです。

主任児童委員設置の情報が、報道が先行したこと、副会長級で迎えられるという誤った報道が流れたこと、また「主任」という言葉にも抵抗感があり、素直に受け入れられない状況になってしまいました。

そんな中、平成 6 年 1 月の主任児童委員の委嘱状伝達式を経て、各地区に主任児童委員が誕生したわけですが、受け入れ態勢が整った地区と抵抗感を持ったままの地区とがあり、前途に暗澹たるものがありました。

主任児童委員部会に会長協議会からオブザーバーとして会長が輪番で出向き、主任児童委員について理解をしていただくことから始め、できるだけ各地区で旨い形で主任児童委員が受け入れられるよう進めてまいりました。

このような経過をたどりながら、児童問題に主任児童委員が大きな役割を果すようになったことに感慨深いものがあります。

最後に、民生委員児童委員活動がより期待される時代となった今日、大田区民生委員児童委員の皆様の日々のご努力とご苦勞に敬意を表し、益々のご活躍を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。





「民生委員100周年に寄せて」

大田区民生委員児童委員協議会

第12代会長 波田野 健一郎

民生委員制度 100 周年を迎え、お喜び申し上げます。

私が民生委員となったきっかけは、以前に父が民生委員をしていたこと、そして私自身、人の関わりが好きで何かお役にたてることを行いたいという気持ちからでした。

昔は敬老金の対象年齢が広く、訪問件数も多く大変でしたが、待っていた方から感謝の言葉をいただいた時は、活動をやっているよかったですと実感できる瞬間でした。また、活動を通して、様々な人とのつながりができたことは私にとって大切な財産の一つとなりました。

昭和 46 年 12 月から平成 22 年 11 月までの 13 期 39 年間、活動ができたのも家族の理解があったからです。地域のことに奔走する私を温かく支えてくれた家族には、大変感謝をしています。

それから、私の地元である馬込地区の顕彰碑と法要について話をさせていただきます。

民生委員児童委員顕彰碑は文京区春日の礪川公園に東京都として建立されておりますが、地方にはないといわれております。馬込地区は先輩委員からの功績を明らかにしていくために、平成 15 年 4 月に鳩友会 (*) 初代会長の故加藤錬吾様が馬込地区民生委員児童委員顕彰碑をご提供くださいました。また長遠寺ご住職様のお計らいで、境内に碑を設置していただきました。それから 3 年毎に追悼法要を行っており、今年の 5 月 12 日には鳩友会、春秋会 (**) から 63 名のご参列をいただき、第 6 回法要を無事執り行いました。今後も、この歴史や委員同士の繋がりが続いていくことを願っています。

結びに、皆様のご健康とご多幸を祈念し、挨拶とさせていただきます。



▶長遠寺にある顕彰碑(右)と民生委員児童委員信条の碑(左)

* 鳩友会…退任民生委員児童委員の会

** 春秋会…馬込地区の現任民生委員児童委員の会

2. 寄稿



「たいにんみんせい いん じ どう い いん退任民生委員児童委員として」

おお た く みんせい いん じ どう い いん きょうぎ かい
大田区民生委員児童委員協議会
だい だいかいちょう おお わ だ けいち
第13代会長 大和田 圭一

民生委員制度創設 100 周年、お目出度う御座います。その栄誉ある歴史の中に居られたことを光栄に思っています。

私が民生委員に就任したのは昭和 63 年 1 月でした。当時は地域包括支援センターが無く、担当する一人暮らし高齢者が問題を抱えると、委員が個人として対象者に具体的な支援をする場合がかなり多く有りました。

最初は大変な役目を引き受けたなという思いが強く有りましたが、その後、介護保険制度が施行され、地域包括支援センターが出来、デイケアの利用も増え、委員の負担はかなり減ったと感じました。

只、最近協議会としての活動が増え、その中で果たす個々の委員さんの役割が重要になってきていると思います。それにつれて、いろいろな勉強が必要になり委員としての活動時間は多くなっていると思います。現任の委員さんの負担は大きいなと思います。

私の在任中の一番の思い出は、嶺町地区の子育てサークル活動が認められ、平成 11 年に優良民児協として全民児連会長表彰を受賞したことです。指定民児協でもない、小さな会の自主的な活動が認められたことは、非常に嬉しく、前任の方々を含め、委員全員で喜び合いました。

その他、委員を務めたことにより知り合えた、各方面の方々との交流は、今でも私にとって大切な財産です。

自分の思い出を作る為にも、委員の皆様の益々のご活躍を期待しております。





「創設100周年を迎えて」

大田区民生委員児童委員協議会
第14代会長 吉野 鷹夫

このたび民生委員制度創設 100 周年を迎えましたことを、心からお慶び申し上げます。

わが国の社会福祉制度は、今から 100 年前、大正 6 年 5 月岡山県において創設された済世顧問制度がはじまりで、その後大阪府で方面委員制度が発足し、更に戦後の昭和 23 年 7 月に民生委員法が制定され現在に至っております。

民生委員・児童委員制度が大きな節目を迎えようとしている今日、社会は少子、高齢化の進展に伴って、大きく変化しております。私たち民生委員は、これまでも地域に暮らす生活者の視点を持ち、かつ住民のもっとも身近な相談者・支援者としてさまざまな活動を続けてまいりましたが、民生委員法の改正により、住民の立場に立った相談者・支援者としての位置付けが一層明確にされました。そのような中で私は平成 7 年 12 月より 6 期 18 年間、社会的に弱い方々に寄り添いながら、地域福祉のあり方を再確認し、活動の充実を図り、住民の信頼と期待に応える活動を推し進めてまいりました。「介護保険制度」の導入や「児童虐待の防止等に関する法律」が制定され、私たち民生委員にも住民がより良いサービスを利用できるための助言ができることや、適切に行政へのパイプ役になれることが要求されてきました。誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、民生委員・児童委員への期待はますます高まってきております。

任期中 18 年間の活動の中で、様々な方々との出会いがありました。委員同志との出会い、高齢者やしょうがい者との出会い、子どもとの出会い等、その出会いを大切にしながら、現在は違った立場で地域の見守りを続けております。制度創設 100 周年にあたり、18 年間ではありましたが、活動に参加できましたことを誇りに思っております。

最後になりましたが、先人の努力と業績に敬意を表し、大田区民生委員児童委員協議会の一層の発展、充実をお祈り申し上げましてご挨拶といたします。



3. 大田区のおおたくとりくしょうかい 大田区の子どものための取り組み紹介

ごしゃきょう 五者協

おおたくじどういん じどうそうだんじょ がっこう じどうかん こ かにいしえん れんらくきょうぎかい
(大田区児童委員、児童相談所、学校、児童館、子ども家庭支援センターによる連絡協議会)

目的

地域の児童問題について情報交換及び協議等を行い相互の理解を深め、関係機関の協働関係を強化し、児童福祉の向上を図る。

内容

大田区では近隣地区をひとつの分科会とし、18地区を7分科会に分割。1分科会約30名で構成。運営は実行委員となった児童委員および主任児童委員が行い、当日準備、議事の進行、書記等を担う。平成29年度はメインテーマ「あしたを築く子どもたちのために」、サブテーマ「事例から学ぶ」で実施。終了後は、各分科会で会議の内容をまとめた報告冊子を作成する。

出席者

児童委員、児童相談所、学校(教育委員会指導主事、校長、生活指導主任)、児童館、子ども家庭支援センター。



▲報告冊子



▲ H29 : 第3分科会
： 嶺町特別出張所



◀ H28 : 第7分科会
： 蒲田西特別出張所



大田区おおたく児童委員じどうい いんの活動指針かつどうし しん

- 1 児童委員活動については、各地区会長の下、地区の児童委員全員が共通認識を持って活動する。
- 2 子育て支援（個別ケース以外）の窓口担当者は、個人のつながりではなく地区協議会として行い、担当者が交代しても継続できるようにする。また、窓口担当者は、地区会長と連絡を密にする。
- 3 個別ケースについては、主任児童委員が児童福祉に関する機関との連絡調整を行い、地区会長に報告する。また、主任児童委員は当該地区児童委員と情報を共有し、連携して児童問題の解決にあたる。

*第1回確認日 平成19年1月19日
その後、改選期毎に確認

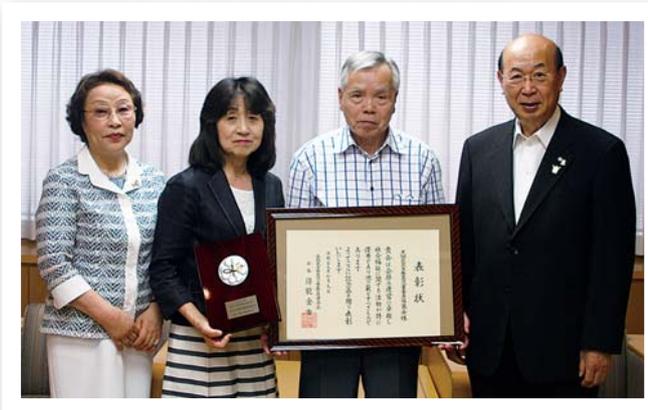
【参照】児童福祉法第17条

この活動指針は、改選期毎に会長協議会にて確認したのち、全民生委員児童委員へ周知徹底を図っています。



3. おおたく とりく しょうかい
大田区の取組み紹介

かつ どう しょう かい
活動紹介



◀大田区民生委員児童委員協議会は、優良民生委員児童委員協議会表彰を受賞しました。
(H29.7.18：受賞報告：大田区役所)



5月 活動普及・啓発パレード

毎年都内民生委員児童委員が集合し、新宿通り（新宿三丁目～新宿駅東口）をパレードし、PRしています。
(H29.5.14：新宿)



大森西特別出張所



本庁舎1F北回廊

5月 活動普及・啓発パネル展

5月12日の「民生委員児童委員の日」に合わせ、毎年5月にパネル展を開催しています。



本庁舎前



**会長協議会
(8月以外毎月開催)**

会議内容を地区民協へ持帰り、情報共有をします。



**オレンジリボンたすき
リレーのお手伝い**

(H28.10.30 : 大森スポーツセンター)



▲萩中祭：大田生活実習所
(H28.11.6)

**区内福祉施設おまつりの
お手伝い**

◀虹まつり：上池台障害者福祉会館
(H28.10.23)



3. 大田区のおおたく とりく しょうかい
大田区の取組み紹介

かいせん き ぎょうじ
★改選期の行事★



民生委員は3年ごとに
改選されています。



委嘱状伝達式、新任研修
(H28.12.6：大田区民センター)



退任感謝会
(H28.12.16：池上会館)



事項別発表会(記念講演)
(H28.11.17：大田区民センター)



厚生労働大臣特別表彰伝達式 (H29.5.29：大田区役所)



★民生委員制度創設100周年記念大会より★

全国民生委員児童委員連合会主催で、民生委員制度創設100周年記念大会が開催されました。こちらでは、その大会の一部を紹介させていただきます。



全国民生委員児童委員大会記念式典
(H29.7.9：東京ビッグサイト)



テーマ別研修
(H29.7.10：東京ビッグサイト)



平成29年7月9日(日)東京ビッグサイトで「全国民生委員児童委員大会記念式典」が挙行されました。式典には天皇皇后両陛下御臨席のもと、厚生労働大臣、全国社会福祉協議会会長、東京都知事からご挨拶をいただきました。

全国の各関係者、民生委員児童委員の代表参加者も含め1万人という大規模な大会になりました。記念式典後の記念講演では、諏訪中央病院名誉院長鎌田實氏の講演が開催されました。第2部では、大会宣言からアクションまで整然と執り行われました。

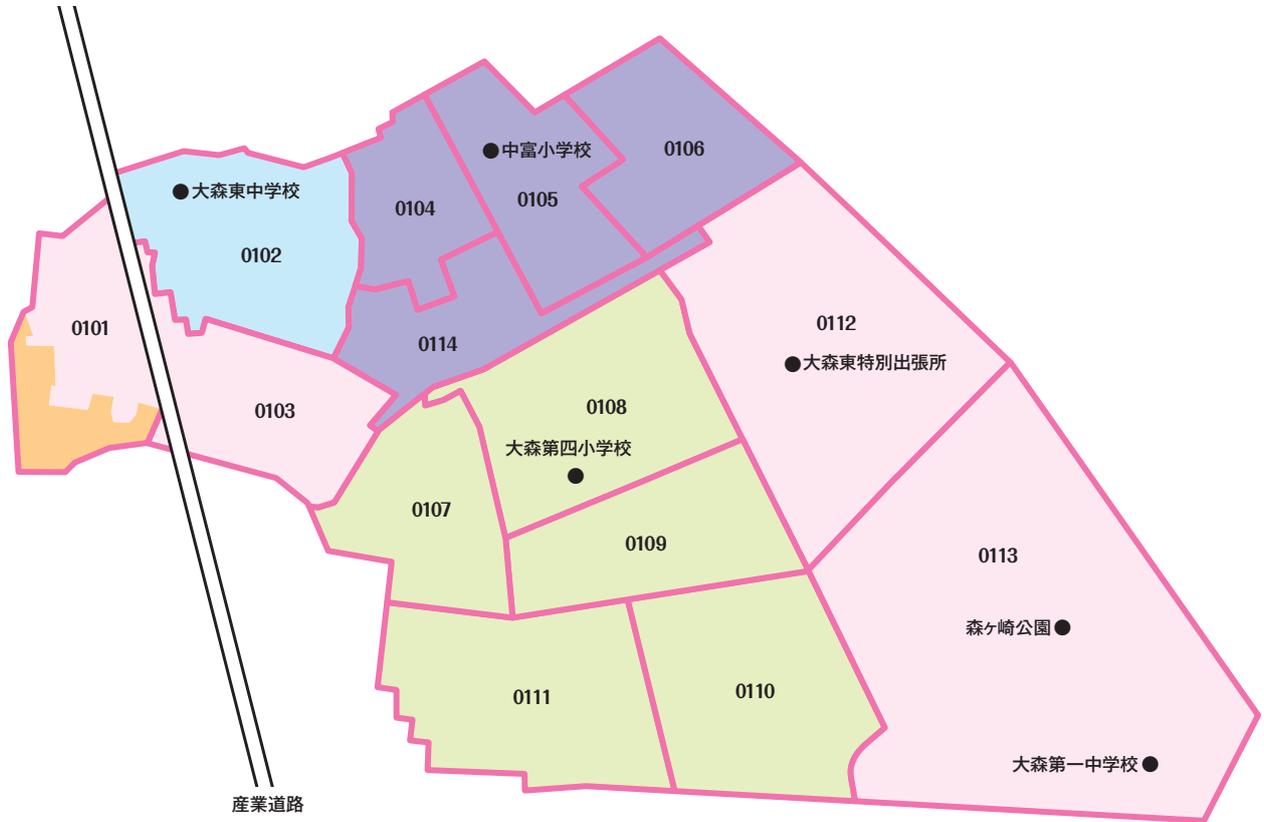
7月10日(月)の2日目はテーマ別研修が行われました。6会場に分かれて①民生委員制度創設の原点を学ぶ、②これからの民生委員児童委員活動、③地域共生社会の実現に向けて、④子どもたちの未来のために、⑤小規模発表集会、⑥これからの民児協活動に向けて、の発表が行われ、各会場とも発表に熱心に聞き入る参加者の姿が見られ、大きな成果を上げることになりました。

民生委員児童委員連合会の組織力と総合力で力強さを感じる2日間となりました。

大田区民生委員児童委員協議会会長 平石 昭夫



おおもりひがしちく
大森東地区



定数	16人(主任児童委員2人)
人口	19,524人
世帯数	10,117世帯

(平成29年4月1日現在)

主な取り組み・活動事例

「地区民児協の計画」

毎年5月、年間計画や事業計画書を作成し、民児協運営に携わる部会や児童館関係者等と情報の共有を図っています。

「いつつのわ幸陽祭」、「ひまわり苑納涼祭」

毎年11月、のぞみ園で行われる「いつつのわ幸陽祭」は、約1,000人が参加する大森東地区の大きなイベントの一つです。祭りへは民児協のほぼ全員が参加しバザーの値付けや販売のお手伝いをしています。

毎年8月の「ひまわり苑納涼祭」は、地域の関係者、各団体、行政等でコミュニケーションを図る場となっています。



かつどう ようす
活動の様子



「いつつのわ幸陽祭」お手伝い
(H28.11.5:のぞみ園)

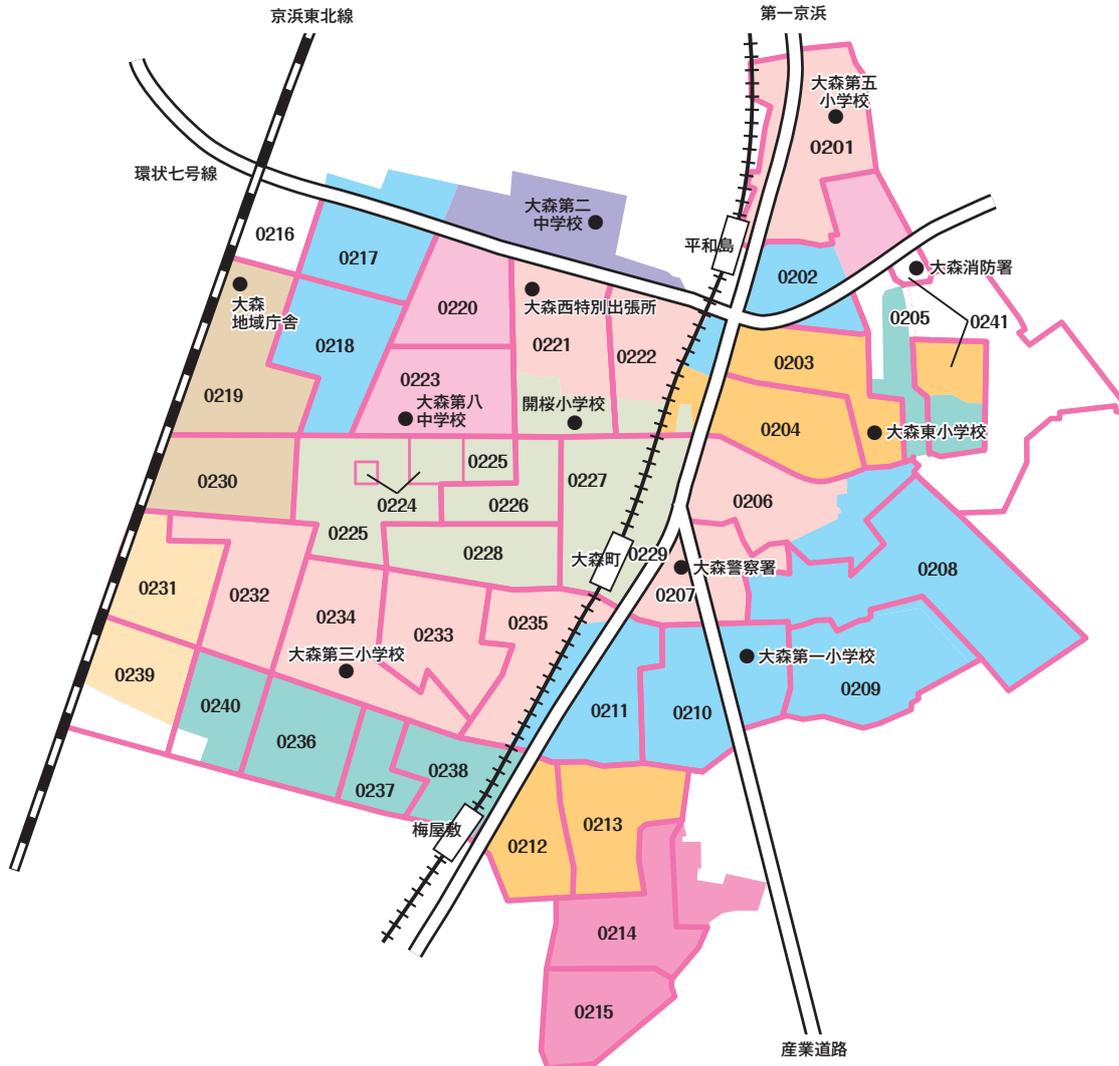


「オレンジリボン
たすきリレーの
お手伝い」

(H28.10.30 : 大森スポーツセンター)



お お も り に し ち く
大森西地区



定数	44人(主任児童委員3人)
人口	59,347人
世帯数	33,568世帯

(平成29年4月1日現在)

主な取り組み・活動事例

「駄菓子屋すみちゃん」

毎週木曜日、NPOが運営する駄菓子屋の手伝いをしています。毎回、幼児から小学生まで50名ほどの子どもたちが参加します。親子での参加も多く、座って飲食ができる交流スペースでは親同士や子どもたちで楽しく過ごしている様子もうかがえます。民生委員は売り子として、子どもたちへお金の使い方やルールを教えたり、顔見知りになって近況を聞いたり、見守りの一つともなっています。

「おともだちつくろうよ」

入新井地区と共催で0～1歳の子どもと保護者を対象に、年5回、季節のイベントをテーマに開催しています。「お友達がほしい」「子育てについて気軽に相談したい」という親子が中心に参加されています。毎回たくさんの親子が参加されていて、イベントに加えて保健師や栄養士からの育児指導などがあります。民生委員は保護者にリフレッシュしてもらうための工作指導を行い、その間は手分けして乳児の保育も行っています。



かつどう ようす
活動の様子



「駄菓子屋すみちゃん」
(H29.3.9 : くらぼ大森)



「おともだちつくろうよ」
(H29.2.21 : 大森地域庁舎)



「施設見学」
(H28.10.25 :
特別養護老人ホーム 花みずき)



4. 18地区の活動紹介

入新井地区



主な取り組み・活動事例

「児童館のお手伝い」

入新井地区管内には児童館が2館あり、月3～4回、毎回3名ほどの委員がお手伝いに行っています。乳児の身体測定のお手伝いや、児童と将棋などの昔遊びや手作り時のサポートをして交流を図っています。

また、お出かけの際は道路を歩いていくため、子どもたちの列の前後について安全に出かけられるよう見守っています。児童館祭りをはじめ、ハロウィンやクリスマスなどの季節のイベントもあり年間を通して子どもたちとの交流を図り、地域で見守っています。

「おともだちつくろうよ」

大森西地区と共催で0～1歳の子どもと保護者を対象に、年5回、季節のイベントをテーマに開催しています。「お友達がほしい」「子育てについて気軽に相談したい」という親子が中心に参加されています。毎回たくさんの親子が参加されていて、イベントに加えて保健師や栄養士からの育児指導などがあります。民生委員は保護者にリフレッシュしてもらうための工作指導を行い、その間は手分けして乳児の保育も行っています。



かつどう ようす
活動の様子



「子育て講座」お手伝い (H29.2.17: 大森スポーツセンター)

「おおもり語らいの駅」

地域包括支援センターの新たな取組みの一環で、子どもからシニアまで集える居場所づくりとして、平成29年5月にオープンしました。

民生委員は、仲間づくりや外へ出るきっかけの一助になればと、ひとり暮らしの方や子育て世帯を中心に周知をしたり、イベント等のお手伝いをしています。

(H29.5.8: おおもり語らいの駅)



「夏休みサマースクール」

(H29.7.24: 入新井第一小学校)



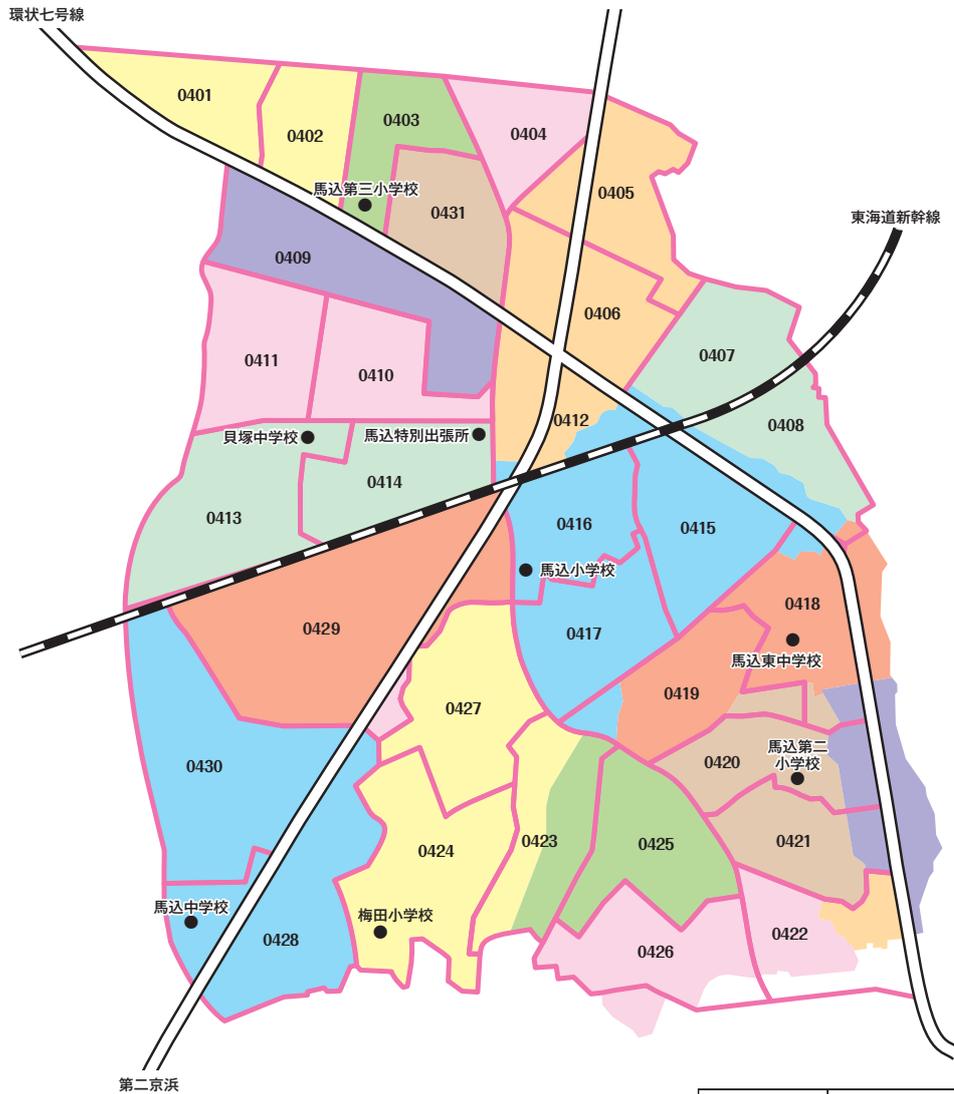
「おともだちつくろうよ」

(H29.2.21: 大森地域庁舎)

◀小学1～6年生が61名参加し、カラフル軍手づくりをしました。



まごめちく
馬込地区



定数	33人(主任児童委員2人)
人口	53,757人
世帯数	28,546世帯

(平成29年4月1日現在)

主な取り組み・活動事例

「ミッキークラブ」

2歳以下の子どもとその保護者を対象に年6回開催している子育て支援活動です。毎回テーマに沿って保健師さんからお話ししていただいたり、季節のインテリアグッズ作りを行ったり、お母さん同士でのフリートーキングなどで楽しんでいただいています。民生委員は育児相談に乗ったり、工作指導や保育のお手伝いなどを行っています。

先日、暗い顔をして参加している方が気になり声をかけてみると、地方からの転入で友達ができずに悩んでいるお母さんでした。話をしているうちに、偶然当日参加した民生委員と共通の話題があることが判明し、意気投合して現在も色々な相談にのり、交流が続いているということがありました。

「小中学校長、児童館長、保育園長との懇談会」

年1回、馬込地区管内すべての区立小中学校7校、児童館9館、保育園18園と懇談を行っています。懇談を通して、お互いの仕事や活動への理解を深めて、個別ケースへの対応を話し合い、情報交換を行っています。



かつどう ようす
活動の様子



【ミッキークラブ】(H28.10.6: ライフコミュニティ西馬込)

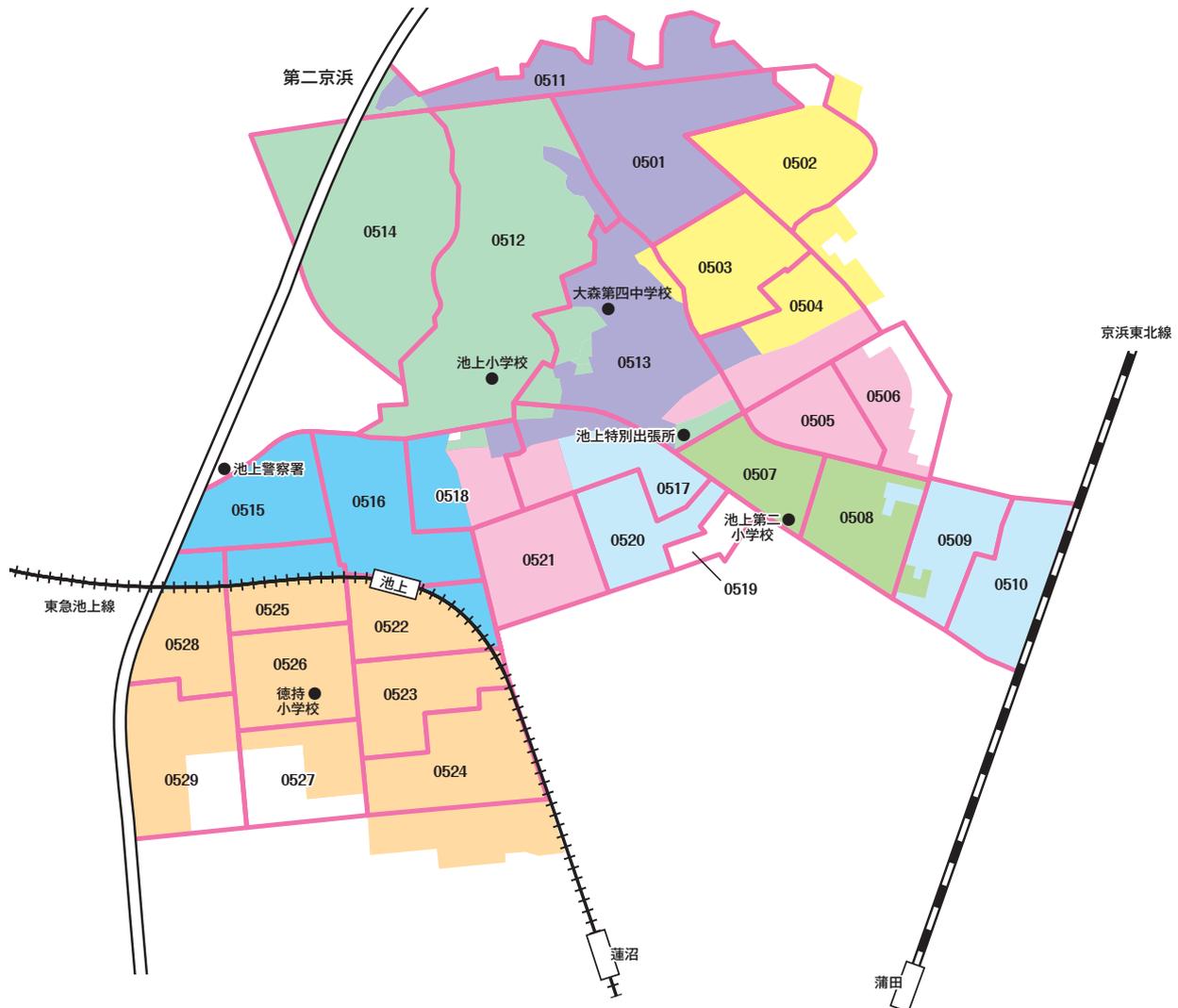


【虹まつり】お手伝い (H28.10.23: 上池台障害者福祉会館)



4. 18地区の活動紹介

池上地区



定数	31人(主任児童委員2人)
人口	44,846人
世帯数	23,511世帯

(平成29年4月1日現在)

主な取り組み・活動事例

「池上ふれあい茶話会」

地域の7つの介護事業所と特別出張所の協力を得て、月1回(8月は2回)、高齢者の居場所づくり、交流の場の提供、見守りを目的として実施しています。内容は、作り物、体力測定、音楽会、映写会、落語など多岐に渡ります。参加者からは、知り合いが増えて良かったとの声が聞かれます。介護事業所との連携を活かして、地域の高齢者のことで情報交換し易くなり、高齢者を巡るネットワークが構築されてきていると感じています。

「おともだちあつまれ」

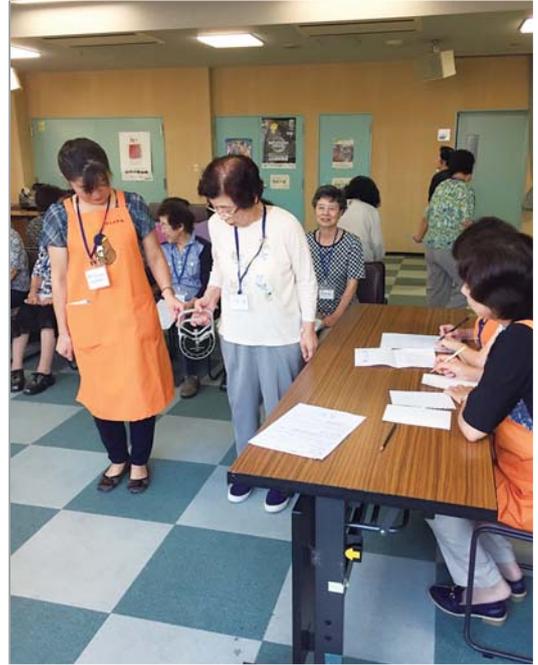
毎月第3木曜日(1月、8月は除く)に子育て中のお母さんたちの仲間づくりを目的に実施しています。子育てに関する情報交換、作り物、人形劇など毎月違ったメニューで楽しんでもらっています。月によっては保健師さんの協力を得て、育児に関する専門的な情報提供と相談の場としたり、児童館の方に体操を教えていただいたり、秋には児童館との合同運動会も行っています。12月にはメインのイベントとして「クリスマスお楽しみ会」を実施し、親子で楽しんでいただいています。



かつどう ようす
活動の様子

「ふれあい茶話会」

(H28.9.27：池上特別出張所 体力測定会)



「おともだちあつまれ」

(H28.12.15：クリスマスお楽しみ会)

「被災地復興支援カレー販売」

毎年、子どもガーデンパーティー
池上会場で販売しています。
売上げは被災地への復興支援の
ために寄付しています。



(H28.5.8：大田区子どもガーデンパーティー：池上会場)

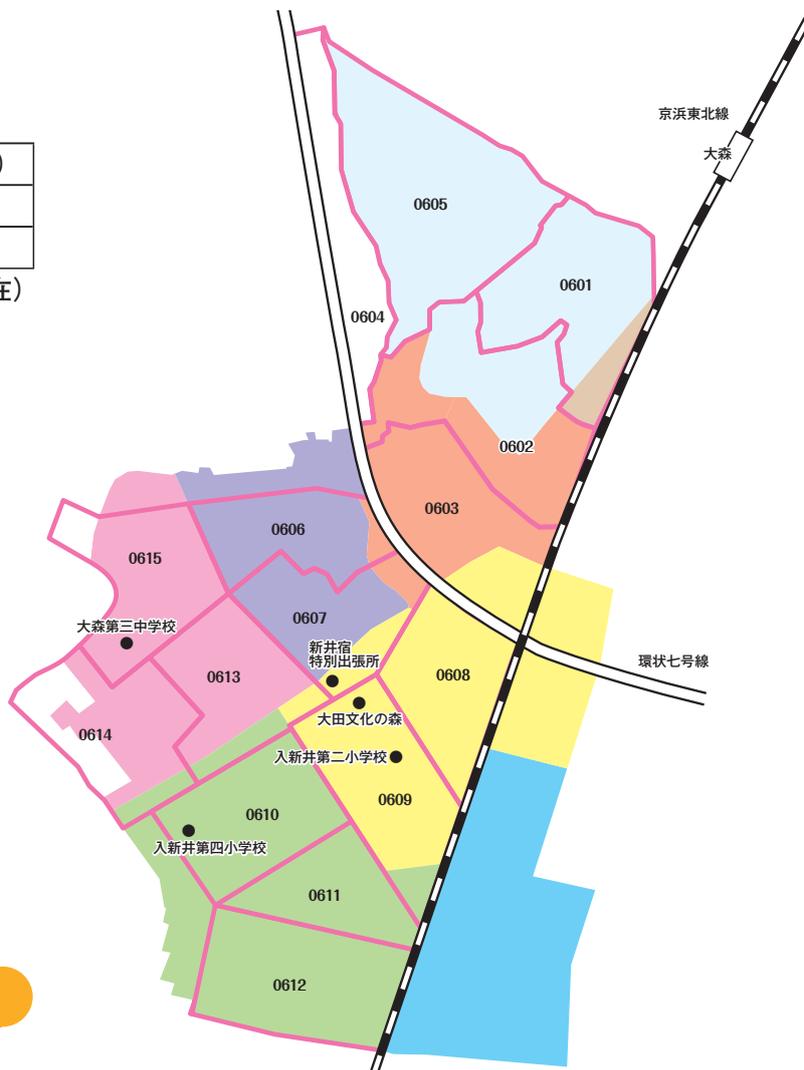


4. 18地区の活動紹介

新井宿地区

定数	17人(主任児童委員2人)
人口	21,459人
世帯数	11,146世帯

(平成29年4月1日現在)



主な取り組み・活動事例

「パリパリ・ボランティア」

毎週火曜日に新井宿福祉園名物のおせんべいを利用者の方と一緒に作っています。利用者の方はパッケージ、シール貼り、点検を行い、民生委員はひたすらおせんべいを焼いていきます。協力して作ったおせんべいはとても美味しく、好評です！民生委員が交代で手伝いに行く、週1回の楽しいボランティアです。

また、毎年11月の新井宿福祉園まつりでは、民児協全員でバザーのお手伝いをしています。

「カスタネット・タイム」

月1回、児童館で双子や三つ子などの子どもを持つ保護者の集まりを開催しています。先輩ママのアドバイスや多胎児ならではの育児のコツを話し合っています。その際、民生委員はお子さんを預かって一緒に遊んだり、保護者にアドバイスを行って交流を図り、楽しくひと時を過ごしています。季節により、七夕コンサート、お楽しみ会があり、ハロウィンでは魔女になって参加します。

「学校との連携」

不登校に関するケース会議に主任児童委員、民生委員ともに参加しています。長年の活動のおかげで学校との信頼関係が構築され、学校側からいろいろな相談をしてもらえるようになりました。中には、何年もかかるケースもありますが、約8割は良い結果を得られています。今後も子どもたちのことを一番に考え、おせっかいしていきたいと思えます。



かつどう ようす
活動の様子



(H29.2.23 : 百人一首であそぶ)



(H29.2.23 : けんだまであそぶ)



「ユニバーサル・ワークショップ」

「パリパリ・ボランティア」

新新宿福祉園でおせんべいを焼いています

昔あそび (小学校訪問)

地域の小学校2年生と一緒に、羽根つき、コマまわし、百人一首、おはじき、お手玉、福笑いなどをし、一緒に給食をいただきます。

